

## 今こそ改革の時

### 町

では行財政改革推進委員会の答申を受け、改革大綱をはじめとするあらゆる意見やデータを基に「福智町集中改革プラン」を本年度中に作成して、これを遂行いたします。いわばこの計画が福智町が進むべき方向を示す羅針盤に位置づけられるわけです。

わたしは、行財政改革の過程で、どれだけ住民の理解と参加を得ることができるか。この点が、再建のための改革にならない、本当の意味での行財政改革の鍵になると思っています。そこに住民の意志が反映され、住民の協働がなければ、単なる行財政規模の縮小だけに終わってしまうからです。

まずは、財政の現状を知り、分析し、町の将来像を描きながら、その上に立って、何を削り、何を残し、何を創るのかを検討していく必要があります。行革や財政再建では、何を削るか、ということに目がいきがちです。削ることも避けては通れません。ですが、むしろ住民参加や新しいシステムをどう作るか、意識や行財政の構造そのものをどう変えていくか、ということに力点を置くべきと考えます。そのためには、実情を的確に把握し、適切な判断を行い得る行政の役割が、極めて重要になると自覚しています。

町政は住民生活に密着し、町の財政危機は、そのまま住民生活にはね返ってきます。福智町の沈没を避けるためにも、新町の礎を築く今こそ、この行財政改革を推し進めなければなりません。わたしは小さな町だからこそ住民一人ひとりが輝く地域を創り得るのだと確信しています。

浦田 弘二 福智町長 

赤池町教育委員会教育長、赤池町長を経て現職。信条は「己を尽くして人を益めず、我が誠の足らざるを常に尋ねべし」早稲田大学卒、59歳。

### 国

るが、自分たちの手で状況を切り開くか。自治体間競争が激化する中、今は全国各地で「協働」が声高に叫ばれています。福智町がこの先、ずっとあり続けるためには「協働」に加え、地域の特性を生かした独自の「ローカル・スタンダード」が必要です。新しい地域づくりは、町の現実と地域の価値や可能性をわたしたちが見つめ直すことから始まります。

も地方もその台所は火の車です。平成18年度末の国と地方の借入総額は775兆円（政府見込み）になると示されています。過去に再建した福智町の現状は、全国の縮図であり、その動きは全国の指標にもなります。小さな町の変革の波紋が、さき波のように広がれば、国をも揺り動かす、新しい形の大きな波にもなり得るでしょう。その一石は、この町に住むわたしたち一人ひとりなのです。

### 市

「度目の再建はないだろう」と合併したから大丈夫」と、だれもが思っています。その感覚が危機感を失わせています。夕張市の例を決して「対岸の火事」にしてはならないのです。町村は「勝ち組」と「負け組」に分けられる時代に立っています。住むべき場所を変え

るか、自分たちの手で状況を切り開くか。自治体間競争が激化する中、今は全国各地で「協働」が声高に叫ばれています。福智町がこの先、ずっとあり続けるためには「協働」に加え、地域の特性を生かした独自の「ローカル・スタンダード」が必要です。新しい地域づくりは、町の現実と地域の価値や可能性をわたしたちが見つめ直すことから始まります。

### 福

智町は、旧3町が財政再建団体を経験した全国でも極めて珍しい自治体です。北海道夕張市が国の管理下で再建を目指すことを決めましたが、福智町はその際のモデルにもなっています。ですが、過去の教訓を生かせず、福智町は財政危機に直面しています。当時、旧町に危機回避能力があれば、財政再建団体への転落もありませんでした。「再建を果たした」ととらえるか「国の管理下でなければ再建できなかった」ととらえるか。教訓を知り、経験も実績もありますが、財政破綻を繰り返す要素を持っているということも忘れてはなりません。

「住民主体」のまちづくりとは、住民参画による「意思」を的確に反映させること。情報を共有してシミュレーションを加え、判断材料を与えられた上での住民の「意志」は、欲しいままの「要望」とは違います。現に町には、以前のように「あれもこれも」の政策ではなく「あれこれ」の選択が迫られています。「計入制出」の財政とは、収入を計算して支出を抑える。借金に頼らず身の丈にあった予算の範囲内で運営することです。借金も、将来その金額以上に収入を増やせば財産になります。無理なく返せる範囲内で有利な借金をする。あるいは財テクをする。あくまでも最小の経費で最大の効果を上げることが前提です。

### 難

しく考えてしまいがちな行財政。しかし、原

※ ローカル・スタンダード：地域の実情にあった地域ならではの基準や制度、価値観。

# ニュー・コミュニティーの夜明け前

同じ過ちを繰り返さないために、同じ道をたどらないために求められることとは何なのでしょう。福智という新しい町の創造に向け、今わたしたち自身が変わるときです。